

全国の情報は国立感染症研究所感染症情報センターホームページにてご覧ください。 <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

定点把握感染症 (指定された医療機関から報告を求める感染症です)

インフルエンザ

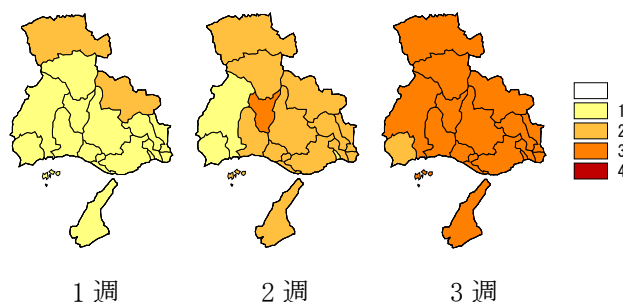
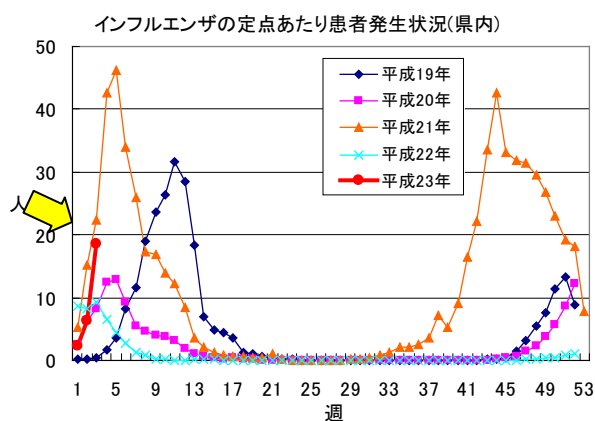
定点あたり患者数は先週の 6.37 人から今週 **18.46 人** と約 3 倍に急増しました。全県的に患者数が増加していて、加東保健所管内では警報レベルである定点あたり 30 人以上、豊岡と丹波の各保健所管内を除く地域が注意報レベルである定点あたり 10 人以上となっています。最近 3 週間の患者の年齢分布は、5 歳未満 21%、5～9 歳 28%、10 歳代 21%、20 歳代 11%、30 歳代 9%、40 歳以上 11% となっていて、20 歳以上の割合が 31% (例年では 20%前後) と多くなっています。

全国的には兵庫県を含む 35 都道府県に警報レベル (定点あたり 30 人以上) の保健所があり、これ以外の 12 県に注意報レベルの保健所があります。

兵庫県立健康生活科学研究所：健康生活科学研究センターでは、今シーズン、これまでに 68 検体のインフルエンザウイルスを検出しています。その内訳は、新型インフルエンザ (AH1pdm) 60 件 (88%)、A 香港型 (AH3 亜型) 6 件 (9%)、B 型 2 件 (3%) となっています。

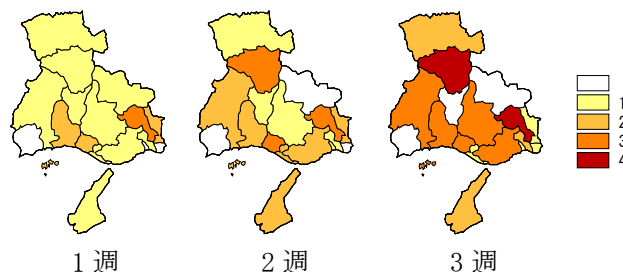
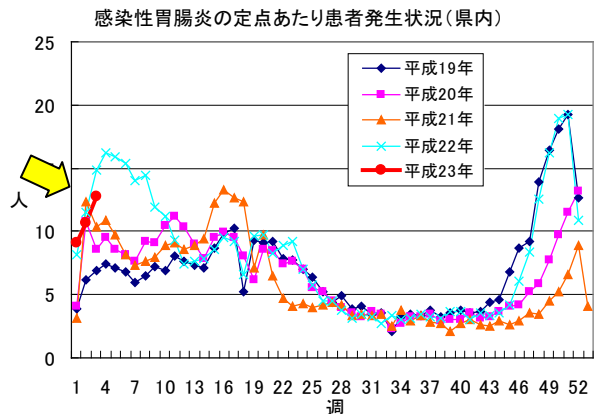
全国で検出報告されたインフルエンザウイルスも、第 49 週以降新型インフルエンザ (AH1pdm) が増加し、A 香港型 (AH3 亜型) の検出報告数を上回っています。

インフルエンザの予防として、手洗い、うがい、咳エチケットの励行、マスクの着用など、インフルエンザに罹らない、広げない対策が重要です。また、感染が疑われる場合は早めの受診が重要です。



感染性胃腸炎

定点あたり患者数は今週 **12.78人**（先週は10.66人）と増加しました。この時期の感染性胃腸炎はノロウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの励行を基本に、吐物などの後始末を素手で行わない、二枚貝類は十分に加熱して食べるなどの注意が重要です。



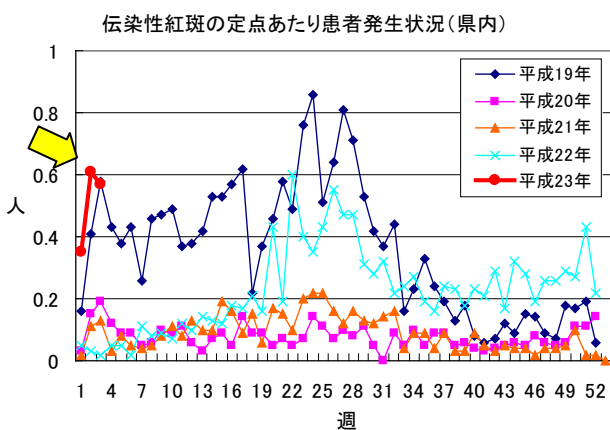
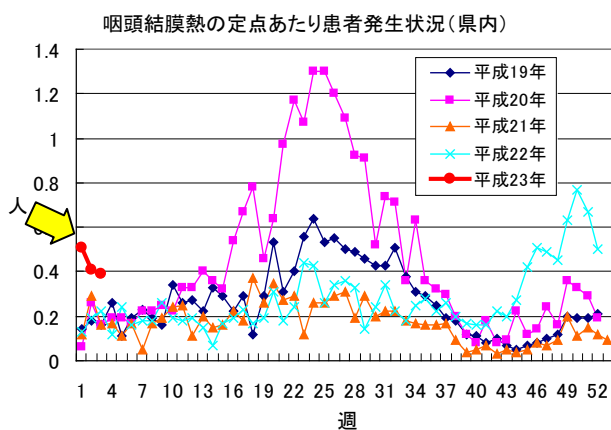
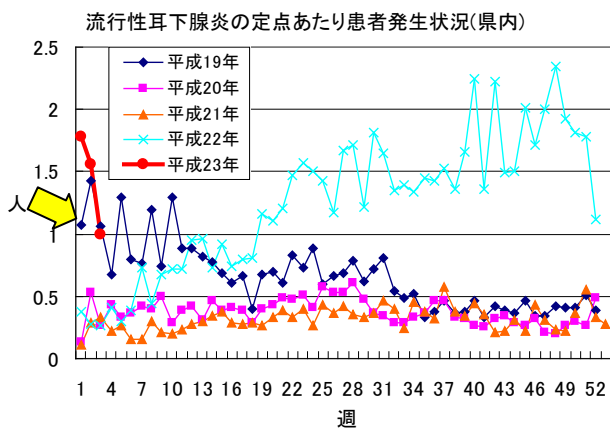
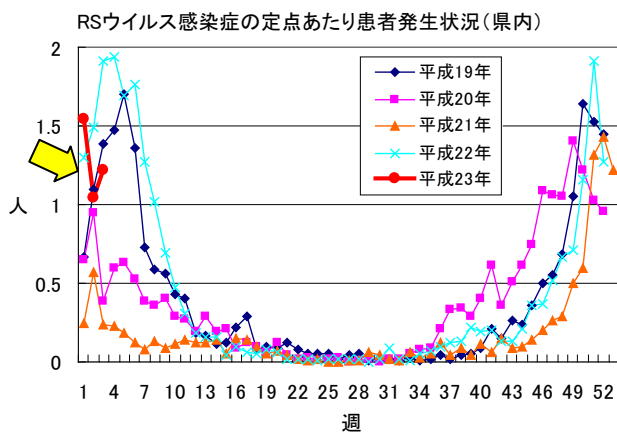
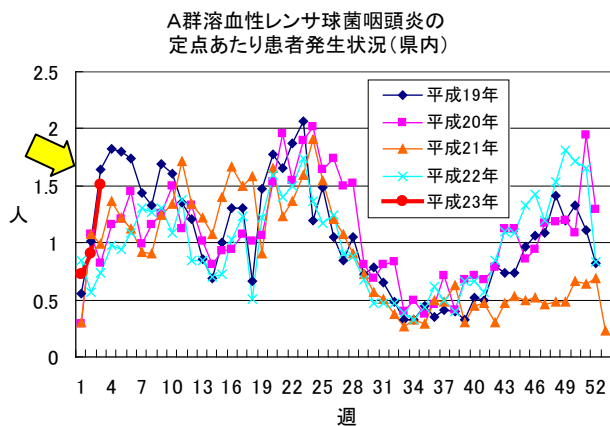
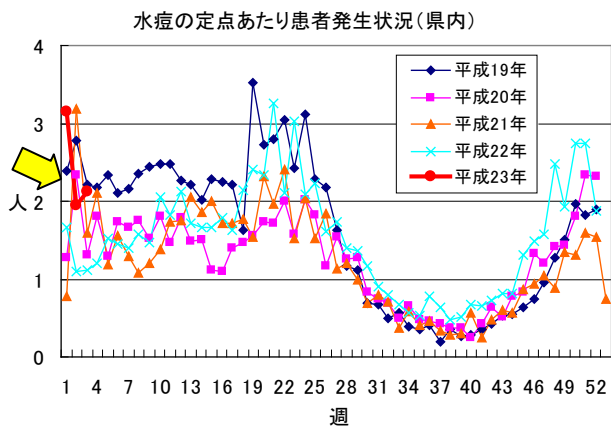
定点あたり患者数の上位10位の疾病

	疾病名	定点あたり患者数		増減		疾病名	定点あたり患者数		増減
		今週	先週				今週	先週	
1位	インフルエンザ	18.46	6.37	+12.09	6位	流行性耳下腺炎	1.00	1.56	-0.56
2位	感染性胃腸炎	12.78	10.66	+2.12	7位	伝染性紅斑	0.57	0.61	-0.04
3位	水痘	2.12	1.95	+0.17		流行性角結膜炎	0.57	0.40	+0.17
4位	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.51	0.90	+0.61	9位	突発性発しん	0.51	0.43	+0.08
5位	RSウイルス感染症	1.22	1.04	+0.18	10位	咽頭結膜熱	0.39	0.41	-0.02

全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症です）

1類感染症	報告はありません。
2類感染症	結核 23名 （神戸市 10名、尼崎市 4名、姫路市 2名、伊丹保健所管内 1名、明石保健所管内 1名、加古川保健所管内 2名、洲本保健所管内 3名）
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 1名 （有症者 1名） （尼崎市；O157 VT2+ 女性 50歳代）（累積報告数 2名；有症者 1名、うち HUS 0名）
4類感染症	レジオネラ症 1名 （伊丹保健所管内；肺炎型 男性 70歳代 感染地域；兵庫県、感染経路；水系感染）
5類感染症	梅毒 1名 （神戸市；晩期顕症梅毒 男性 60歳代 感染地域；国内、感染経路；不明）
追加報告	結核 15名 （尼崎市 1名、伊丹保健所管内 1名、宝塚保健所管内 2名、加古川保健所管内 5名、丹波保健所管内 1名、洲本保健所管内 5名）

目で見える動向（県内）



この週報は兵庫県立健康生活科学研究所：健康科学研究センターホームページ <http://www.hyogo-iphes.jp/> にも掲載しています。
また、<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> から国立感染症研究所感染症情報センターの週報（IDWR）がダウンロードできます。